

部活動の活動方針

銚子市立銚子中学校

校長 小関 宏昌

教 育 目 標	<p>(1) 学校教育目標 「知・徳・体」の調和のとれた生徒の育成</p> <p>(2) 学校教育目標と部活動の関連</p> <p>① 《目指す生徒像》から 運動や芸術文化活動に親しみ、健康で活力に満ちた生徒</p> <p>② 《経営の重点》から 健康で安全な生活を実践する能力や、積極的に運動や芸術文化活動に親しむ態度を育成する。</p> <p>③ 《経営の重点における具体的方策》から</p> <ul style="list-style-type: none">健康で安全な生活を実践する能力や、積極的に運動や芸術文化活動に親しむ態度を育成する。部活動については技能、体力の向上を図りながら、併せて生活態度や学習意欲の向上及び責任感、連帯感を意図的・計画的に育成する。部活動においては、必要に応じて専門的な知識、技能を有する外部コーチを活用する。
部 活 動 の 基 本 方 針	<p>(1) 部活動の基本方針</p> <ul style="list-style-type: none">運動や芸術文化活動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって豊かなスポーツライフや芸術文化活動等を継続する資質や能力を育てる。また、体力向上や健康増進を図る。保健体育科、芸術教科等の教育課程内の指導で身に付けたものを発展、充実させたり、活用させたりするとともに、部活動の成果を学校の教育活動全体で生かす機会とする。また、自主性、協調性、責任感、連帯感などを育成するとともに、自己の力の確認、努力による達成感、成就感をもたせる。互いに競い、励まし、協力する中で友情を深めるとともに、学級や学年を超えて仲間や指導者と触れ合うことにより、よりよい人間関係の形成につなげる。 <p>(2) 適切な指導</p> <ul style="list-style-type: none">科学的トレーニング及び合理的指導方法を取り入れる。 ※スポーツ障害や外傷リスク、バーンアウトすることのない活動各部の活動方針に基づき、試合期とトレーニング期（オフシーズン）の練習内容を工夫する。生徒間及び指導者との良好なコミュニケーションが図れるよう、ミーティング等を適宜設ける。 ※いかなる場合であっても、指導者は体罰やセクハラ及びパワハラ等の行為は絶対に行わない。活動場所等の可視化に努めるよう環境面での整備や配慮を行う。（定期的な調査の実施） <p>(3) 適切な活動時間</p> <ul style="list-style-type: none">課業日における活動時間を2時間程度、長期休業中の活動時間は3時間程度とする。土日祝日は、大会・コンクール・練習試合・合同練習等を除き実施しない。 ※休養日の設定については、学期中は平日に1日以上（毎週木曜日）、週末に1日以上少なくとも2日以上休養日を設ける。 ※木曜日が祝日の場合は休養日とする。 ※練習試合や遠征などは、計画的に実施し、長時間の活動となった場合は、その前後の活動時間を短縮し、休養日を確実に設定するなどの対応を図る。学校行事や定期試験前等には、活動停止等の配慮をする。朝練は実施しない。 <p>(4) 事故及び感染症防止</p> <ul style="list-style-type: none">発達段階や体力、技術の習得状況を把握し、無理のない活動となるよう留意する。活動前後の健康観察を行い、健康管理に努める。また、感染症や熱中症等の予防として、地域の感染状況を鑑みた活動、気温・湿度などの環境条件に配慮した運動実践に努めるとともに、適切な休憩（積極的な給水や換気、消毒、手洗い、うがい）を適宜とる。活動場所や用具などの安全点検を毎回行う。活動場所におけるWBGT（暑さ指数）が31以上の時は屋内外での運動を中止する。 <p>(5) その他</p> <ul style="list-style-type: none">年度当初、部活動保護者会を開催し、活動方針を明確に伝え、保護者の理解と協力を得る。また、年間計画及び練習計画を知らせる。さらに、必要経費や活動にかかる費用の説明も行う。なお、部活動保護者会については、必要に応じてその都度開催する。部員数によっては、他校との合同チームなどの取組を考える。総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団、体育協会などとの連携を密にし、学校と地域が協働できる環境や、部活動指導員および外部指導者の活用も進める。

